

能登の里山里海景観「輪島西保地区の間垣」保全継承のための実証的研究

指導教員 金沢大学地域創造学類地域プランニングコース 准教授 松下重雄

参加学生 青木友里恵, 平手勘士, 永谷基 (以上, 3年生)

川口大貴, 酒井知香, 前野恭穂, 米良亘平 (以上, 4年生)

1. 調査研究成果要約

能登・輪島の特徴的な里山里海景観を構成要素である「間垣(まがき)」は、大沢地区においては、過疎高齢化等の進行により、地域に自生するニガタケにより作られた伝統的なタイプのものがほとんど消失する状況にあり、その保全を図る必要性が急務であることが確認された。このため、間垣保全活動であるニガタケ伐採、間垣補修等の一連の活動を地域住民と学生が連携して行うプログラムの可能性を実践的に検証し、今後の支援のあり方について検討した。

2. 調査研究の目的

輪島市西保地区の大沢および上大沢集落は、冬の海からの強い風から家々を守るため、間垣と呼ばれる垣根で覆われている。これら間垣は地域に自生するニガタケという細い竹で構成され、その維持のために基本的には毎年差し替える作業が必要である。しかし、地域住民の高齢化の進展等により毎年の補修作業が困難となり、維持管理を容易にするために、板貼りの垣根に替えられたり、放置されたりしているものもあり、間垣の景観が失われつつある。このため、能登の里山里海景観の重要な要素である間垣の風景を後世に継承するための新たなしくみづくりが求められている。

当ゼミにおいては、平成 23 年度に西保地区の間垣の補修概況を把握するとともに、地域でおこなう間垣の補修作業に体験参加した。これらの活動蓄積を踏まえ、本年度においては、とくに間垣の維持管理態勢が懸念される大沢集落を対象に、間垣の維持管理の実態や地域の意向を把握するとともに、維持管理が困難となった間垣補修を学生が中心となって実施する活動をとおして、地域外人材を活用した間垣保全活動の可能性について検証するとともに、今後のあり方について検討することを目的とする。

3. 調査研究の内容

(1) 事前概況調査(アンケート調査)

現地調査を実施する前に、上大沢地区、大沢地区の地域住民を対象に、アンケート調査を通じて学生等による間垣補修支援活動に関する意向の概況を把握する。

(2) 間垣保全状況実態調査、間垣保全活動地域意向調査(現地調査)

輪島市大沢地区の間垣の実態調査として、東京農業大学荒井研究室による既往調査をベースに、現況の地区全体の間垣の保全状況について追跡調査をおこなうとともに、間垣保全作業に関する実態や地域外人材による間垣保全活動に対する意向について地域住民に対するインタビュー調査を実施する。これらで得られたデータをもとに、各間垣の保全実態について「間垣カルテ」を作成し、間垣補修支援活動の基礎資料とする。

(3) ニガタケ移植可能性検討調査(現地調査)

間垣の素材となるニガタケについて、現況の生息環境評価に関する現況調査を植物生態学の専門家の同行により実施する。あわせて、ニガタケの採取作業を容易にするためのニガタケの休耕田等への移植事業の可能性について現地検討をおこなう。

(4) 地域ワークショップの開催

間垣を所有する地域住民代表を対象に、これまでおよびこれからの間垣の維持管理について意見交換会(グループインタビュー)を開催するとともに、それらを踏まえ大沢間垣保存会等の地域関係者とともに今年度の間垣補修実証実験の内容について検討をおこなう。

(5) 間垣保全支援の実証実験の実施

地域外人材による間垣補修支援の実証実験として、所有者による補修が困難となっている複数の間垣を対象に、学生と地域との連携による間垣補修作業を実施し、実施可能性を検証するとともに、作業内

容等に関するデータを整理する。具体的な間垣保全支援作業の内容は、ニガタケの採取作業、間垣の補修作業に加え、ニガタケの生息環境の確保作業をおこなう。

なお、間垣補修作業については、それらの作業を含む輪島の間垣の里を学ぶスタディ・ツアーを一般学生を対象にモニターツアーとして企画し、実施する。

(6) 間垣補修支援活動支援ツールの作成等

間垣保全支援活動を支援するツールとして、間垣補修作業過程についてわかりやすくまとめた「間垣保全の手引き」の作成、映像資料の作成、地域広報の発行等をおこなう。

(7) 持続的な間垣保全支援活動のしくみの検討

上記の活動をとおして、持続的な間垣保全支援活動の今後のあり方について検討をおこなう。

4. 調査研究の成果

(1) 事前概況調査および現地調査

①事前概況調査

上大沢地区および大沢地区を対象(全戸)に、学生の支援によって実施する間垣補修活動について、地域意向調査を実施した。回収は18票(回収率16%)と少なかったが、補修支援活動の受入れについては概ね好意的で、「地区としてはとてもありがたい。住民として協力することがあれば一緒にやりたい」、「若い力は絶対に必要。学生が安心して活動できる受け入れ体制を地域で作ることが大切である」、「間垣保全活動に限らず、学生と地交流の機会があるとよい」といった声などが寄せられた。

②間垣保全状況に関する実態調査

・現地踏査による間垣保全状況の把握

大沢地区の間垣(全45個)を対象に、現地踏査による間垣の保全状況調査を実施した。③の調査成果とともに以下の調査項目を記録し、間垣カルテとして間垣の保全状況の個票を整理した。

表1 「間垣カルテ」の掲載事項

<ul style="list-style-type: none"> ・集落名 ・間垣番号 ・間垣の現況写真(正面、横、各部位の特徴的素材) ・所有者名 ・所有者の年齢構成 ・間垣タイプ(伝統継承、混合、簡易、その他)(変更時期) ・間垣の規模(幅、高さ、段数) ・間垣の素材やその他の特徴的な構造など(壁体、結束素材、ヨコブチ素材など) ・その他特徴的な構造など ・間垣補修の頻度・実態 ・ニガタケの採取作業状況 ・間垣補修作業体制 ・地域外人材(大学生等)の協力による間垣補修作業実施に対する意向 ・その他特記事項

間垣の保全状況の概況としては、東京農業大学荒井研究室による間垣の現況調査(2009)を基に間垣のタイプを確認すると、昔ながらのニガタケのみによって間垣を構成する「伝統継承タイプ」、維持管理のしやすい板材のみによって構成する「簡易タイプ」、簡易タイプの板材の隙間にニガタケを差した「混合タイプ」の存在が再確認されたとともに、板材の前面全てにニガタケを薄く差した「擬似伝統継承タイプ」やトタン板等のみで構成される「改変タイプ」の存在が確認された。

また、2009年時点で伝統継承タイプと確認されたもののうち(14個)、現在残っているものはわずか4個であることが確認された。

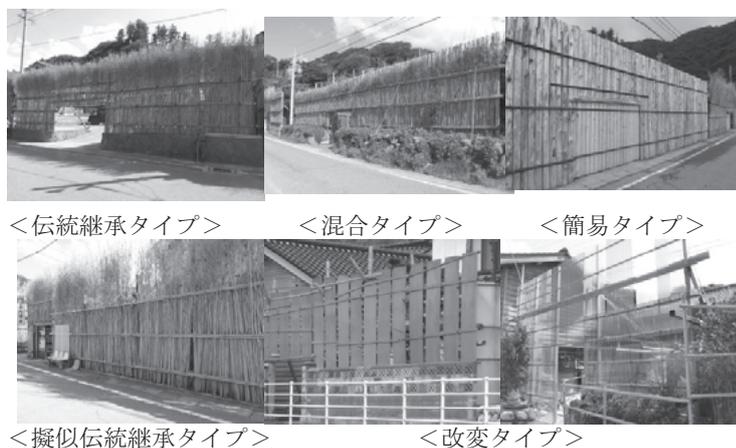


写真1 大沢地区の間垣のタイプ

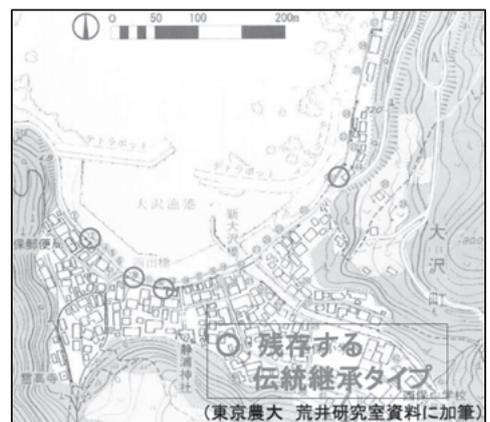


図1 大沢地区に残る伝統継承タイプの間垣

③間垣保全活動に関する地域意向調査

間垣を所有する地域住民の方（10名）に、間垣の保全状況や学生による支援活動等について聞き取り調査を実施した。主な意見は、次のとおり。

表2 地域住民による主な聞き取り調査結果（抽出）

Aさん	女性・80代	一人暮らし。庭の蔵の崩壊に伴い今夏に間垣を伝統継承タイプから簡易タイプに改修。板の間にタケを差したいが自分ではできず、誰かにやってもらえるとありがたい。
Bさん	女性・70代	約30年前に維持管理が面倒だったので間垣の素材をトタン板にしてしまった。ニガタケの間垣は機能的にも優れているので戻したいが、高齢のため難しい。
Cさん	女性・60代	毎年、夫婦で間垣補修作業を行っている。ニガタケが採れなくなって困っている。作業がだんだんつらくなってきたので、お金さえあれば簡易タイプに変更したい。
Dさん	女性・60代	一人暮らし。15年ほど前に混合タイプに。金沢に息子がいるが補修技術は伝承されておらず、近所の親戚に数年に一回作業を依頼。学生の手伝いを歓迎する。



写真2 聞き取り調査の様子

④ニガタケ生息環境調査および移植可能性検討調査

上記聞き取り調査等を通じて、ニガタケの採取場所が集落より遠い場所にあり高齢者にとっては採取・運搬作業が困難であることや、ニガタケそのものの生息状態の悪化等により、ニガタケの入手が近年困難となっていることが確認された。このため、ニガタケの生息環境の環境改善手法に関する診断と、ニガタケの切り出し作業を容易にするために休耕田を活用したニガタケの移植作業（ニガタケ畑づくり）の可能性について、植物の専門家の同行により現地調査を実施した。



写真3 ニガタケ生息環境調査

その結果、ニガタケの生息環境の悪化は、ニガタケの密生や葛等の繁殖が原因の一つとしてあげられ、成長を促進するために適度な間伐や葛等の除去が必要との診断が得られた。また、ニガタケの移植については、前例がないが、地下茎の株ごとに適度な間隔を保ちながら移植すれば、おそらく根付いて繁殖するであろうとの見解が得られた。

(2) 間垣保全支援活動の実施

①地域ワークショップの開催等

事前概況調査および現地調査を踏まえ、大沢間垣保存会、行政関係者とともに、間垣保全支援活動の内容として、補修対象間垣、ニガタケ採取箇所、間垣補修内容等について、検討をおこなった。それにより、今年度の間垣補修対象家屋は、居住者の高齢化等により数年間補修作業が放置されている3軒程度を対象（混合タイプ）とすること、伝統継承タイプの間垣の補修体験も活動に組み込むことなどが決められた。



写真4 地域ワークショップ

②ニガタケ伐採作業

補修対象予定間垣の規模に従い必要とされるニガタケの本数を算出し、作業工程を以下のとおり計画し、ニガタケ伐採作業を実施した。

伐採作業は、想定した作業時間の範囲内で作業が完了でき、学生中心によるニガタケ伐採作業の実施可能性を検証することができた。なお、作業日は当初の予定日が荒天のため延期となり、当作業の実施が天候に左右されることが改めて認識され、日程設定の難しさが明らかになった。



写真5 ニガタケ伐採作業

表3 ニガタケ伐採作業の内容

<ul style="list-style-type: none"> ・作業実施日：2012.11.05（月）（大学休日）（当初予定11/2（学祭日）が雨天延期） ・伐採箇所：大沢集落内の車出氏敷地裏の急斜面（不足の場合は、集落外で採取） ・採取対象：3～5年成長のニガタケ（節が黒く、葉も多い。1年物は耐久性なし） ・作業工程：ニガタケの伐採および葛等の除去→搬出→結束（20本～30本） ・伐採本数：約450本（混合タイプ間垣の間隔数150個×3本 相当） ・作業時間：2時間（10時～12時） ・作業人数：学生9名、地元指導者4名 ・必要な道具など：竹挽きノコ、ナタ、軍手、ゴーグル、長靴など
--



写真6 ニガタケの結束

③間垣補修作業

補修支援活動対象間垣について、学生中心による補修作業を以下の内容で実施した。補修作業も、想定した作業時間の範囲内で作業が完了でき、学生中心によるニガタケ補修作業の実施可能性を検証することができた。

表4 間垣補修作業の内容

- ・作業実施日：2012.11.23（金・祝）
- ・補修対象間垣：数年補修が行われていない混合タイプ間垣4軒分、全長約45m
- ・作業全体工程：・結束ニガタケの枝落し→補修箇所への搬出→補修作業
- ・補修作業内容：・二人一組以上でニガタケを下から渡す人、梯子で差す人に分担
 - ・ニガタケを回しながら差し、下方では道具で隙間を空ける、
 - ・ニガタケの長さを原則揃えるが、困難な場合は上辺を揃える
- ・作業時間：2.5時間（14時～16時半）・作業人数：学生14名、地元指導者4名
- ・必要な道具など：梯子、ナタ、ニガタケ隙間確保用工具、軍手、雨合羽、長靴等



写真7 間垣補修作業



写真8 ニガタケ移植作業

④ニガタケ生息環境整備作業

ニガタケの生息環境調査等にもとづき、ニガタケ伐採作業時および間垣補修作業時に、ニガタケの生息環境整備のための実証実験として、学生が中心となってニガタケの間伐、ニガタケの株掘り起し・移植作業を実施した（詳細省略）。今後の生育状況についてモニタリングを行う予定である。

⑤間垣の里スタディ・ツアーの企画運営

間垣補修作業は、今後の継続的な活動を見据えて、一般学生を対象としたスタディ・ツアーとして企画し、モニターツアーをおこなった。



写真9 学生と地域交流会

表5 間垣の里スタディ・ツアーの工程

- 【11月23日】 8:00 金沢発→車中にて全体ガイダンス（日程説明、地域概況など）→10:00 輪島市上大沢地区着→上大沢地区「間垣の里」見学→間垣（大沢地区）見学→11:30 公民館にて地域ガイダンス（間垣を取り巻く地域の現状、作業内容）→12:00 昼食（公民館）→13:00 間垣補修体験（伝統継承型タイプの間垣補修方法について学ぶ体験実習）→14:00 間垣補修支援活動（間垣補修作業・3軒）→16:30 作業終了→お風呂（輪島市内銭湯）→輪島千枚田見学→19:00 夕食（公民館）→20:00 地域との交流会（公民館）
- 【11月24日】 8:00 朝食（公民館）→9:00 ニガタケ移植作業（ニガタケ堀、植え付け）→11:30 昼食（公民館）→12:30 ふりかえり→13:00 大沢地区発→途中、黒島伝建地区視察→18:00 金沢着

（なお、スタディ・ツアーは「能登キャンパス・ゼミナール事業」を活用し実施しており、詳細はそちらで報告する。）

⑥間垣保全支援活動支援ツールの作成等

これらの活動を踏まえ、間垣保全支援活動の支援ツールとして、地域広報用冊子「間垣保全支援活動便り（A4両面）」、活動参加者への説明用冊子「間垣の話（A3両面）」を作成・配布した。

（3）今後の展開に関する検討

間垣保全支援活動を持続的に展開するための課題、方策等について、地域関係者とともに検討した。

5. 調査研究に基づく提言

- ・間垣の保全は急務であり「間垣カルテ」を基礎とした間垣保全支援データの整備・活用が必要
- ・間垣保全活動を持続的なものとするためのしくみ（教育・交流プログラム等）の構築が重要
- ・間垣保全支援活動の地元の受け入れ体制の充実、地域とつなぐコーディネート機能の確保が必要

6. 調査研究の自己評価

本年度は現地調査および間垣保全支援活動の基礎的部分をひとつおき実施できた。今後、着実に検討および活動を積み重ね、間垣保全活動の新たなしくみを構築したい。

7. 調査研究に対する地域からの評価

地域からの評価も高く、間垣保全支援活動の今後の持続的、多面的な展開が期待されている。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■紹介新聞記事 「間垣の材料ニガタケ切り出し—金大生お手伝い」北陸中日（'12.11.6） 「冬の北風 間垣で防げ—金大生らが補修作業」北陸中日（'12.11.24） 「風の里 ぬくもり囲い」日本農業新聞（全国紙）（'12.12.2） ■紹介TV番組 番組名「かがのとイブニング」NHK（地方局）（'12.11.23） | <ul style="list-style-type: none"> 「間垣保存へ金大協力—学生がニガタケ刈り」北國（'12.11.6） 「外浦の間垣補修—金大生と連携 高齢住民支え」北國（'12.11.24） 番組名「お元気ですか日本列島」NHK（全国放送）（'12.11.28） |
|--|--|